

教育の影響力について

1. 教育を考える一言

「一年の計は穀を樹うるに如くは莫く、十年の計は木を樹うるに如くは莫く、終身の計は人を樹うるに如くは莫し。一樹一穫なる者は穀なり、一樹十穫なる者は木なり、一樹百穫なる者は人なり。」

2. 背景

「十年樹木、百年樹人」という言葉が中国でよく聞かれます。原典は、古代中国の政治家・管仲（かんちゅう）の言葉です。管仲は斉の桓公を天下の覇者にたらしめたことで知られ、中国史上で最も優れた宰相の一人として誉れが高いです。中国では誰でも知っている「衣食足りて礼節を知る」（生活が豊かになって初めて心にゆとりができて、民生の安定こそ国家の仕事であるという意味です）というの、管仲の政策から生まれました。

3. 考察

大学時代は中国古代の春秋戦国時代に活躍したいわゆる「諸子百家」の著した思想書を好きで、よく読んでいました。管仲のこの言葉を読んでいた時、それまで考えたことがなかった教育の影響力について、考えさせられました。「一年の計は穀を樹うるに如くは莫く、十年の計は木を樹うるに如くは莫く、終身の計は人を樹うるに如くは莫し。一樹一穫なる者は穀なり、一樹十穫なる者は木なり、一樹百穫なる者は人なり。」というのは、一年の計は穀物を植えるに及ぶものはなく、十年の計は木を植えるに及ぶものはなく、終身の計は人を植えるに及ぶものはない。一を植えて一の収穫があるのは穀物であり、一を植えて十の収穫があるのは木であり、一を植えて百の収穫があるのは人であるという意味です。

人材の育成が、国家・社会のあらゆる分野の発展の基盤となると思われませんが、即刻に結果を見られないです。その成果を見極めるには、一生涯をかけた計画が必要です。教育は、日々の実践の積み重ねであり、成長発達に従い、継続することが大切だと思います。教育政策を考えるに当たり、当面の課題を克服することは重要ですが、短期的な対策だけを講じていてはならないです。しかし、確かな洞察の下で、計画的に教育施策を進めれば、成果が生かされる時間も長いです。いい教育は次世代にも影響があります。それはまさに「一樹百穫なる者は人なり」ということだと思います。

そして、教師という仕事もそうです。教師の話したことや指導したことなどにより、生徒に大きな影響を及ぼします。さらに、生徒これからの人生、生徒の子どもにも影響を与えるかもしれません。「一を植えて百の収穫があるのは人である」。なので、教師という職業を就く人が人の人生に影響を与えるという責任感を背負ってやっていかなければならないと思えたのです。

引用参考文献

松本一男『管子 中国の思想Ⅷ』道間書店、1996年